

平成 30 年 2 月 18 日 (日) 施行

第 189 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 船舶の直接の材料のため、直接材料費
2. 減価償却費は、間接経費
3. 直接工賃金のため、直接労務費
4. 従業員賞与手当のため、間接労務費
5. 複数の船舶に消費しているため、間接材料費

第 2 問

1. 材料購入を行った。
2. 賃金を仕掛品勘定に振り替える。
3. 電力料を製造間接費勘定に振り替える。
4. 製品が完成したため、仕掛品を製品に振り替える。
5. 売り上げと同時に、製品原価を売上原価に振り替える。
6. 売上高・売上原価ともに月次損益勘定に振り替える。

第 3 問

月末仕掛品原価と完成品総合原価を求める。

材料はすべて始点で投入。月末仕掛品の評価は先入先出法。したがって計算表は下記ようになる。

先入先出法による原価計算 単位：円

原価計算表

	数量	直接材料費	換算量	加工費	合計
当月投入	3,000 個	1,215,000	3,050 個	908,900	2,123,900
月末仕掛品	250 個	①101,250	200 個	②59,600	160,850
差引	2,750 個	1,113,750	2,850 個	849,300	1,963,050
月初仕掛品	200 個	65,000	100 個	36,100	101,100
完成品	2,950 個	1,178,750	2,950 個	885,400	2,064,150

$$\textcircled{1} \quad 1,215,000 \times 250 \text{ 個} \div 3,000 \text{ 個} = 101,250$$

$$\textcircled{2} \quad 908,900 \times 200 \text{ 個} \div 3,050 \text{ 個} = 59,600$$

第 4 問

- ① 材料を消費し、製造間接費に振り替える。
- ② 賃金を消費し、仕掛品に振り替える。
- ③ 製造間接費を仕掛品に配賦。
- ④ 仕掛品が完成し、製品に振り替える。
- ⑤ 製品原価を売上原価に振り替える。

第5問

(1) 原価計算表の作成

#801

直接材料費＝	3,000	材料元帳払出欄より 8/2 に出庫している。
直接労務費＝	54,000	8月の直接労務費実際発生額 $480,000 \times 90 \text{時間} \div 800 \text{時間}$
製造間接費＝	27,000	製造間接費 240,000 を 配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。 $240,000 \times 90 \text{時間} \div 800 \text{時間}$

#802

直接材料費＝	46,000	材料元帳払出欄より 8/5 に出庫している。
直接労務費＝	330,000	8月の直接労務費実際発生額 $480,000 \times 550 \text{時間} \div 800 \text{時間}$
製造間接費＝	165,000	製造間接費 240,000 を 配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。 $240,000 \times 550 \text{時間} \div 800 \text{時間}$

#803

直接材料費＝	29,600	材料元帳払出欄より 8/25 に出庫している。
直接労務費＝	96,000	8月の直接労務費実際発生額 $480,000 \times 160 \text{時間} \div 800 \text{時間}$
製造間接費＝	48,000	製造間接費 240,000 を 配賦基準（直接作業時間）を用いて、配賦する。 $240,000 \times 160 \text{時間} \div 800 \text{時間}$

(2) 製造指図書 #802 のためにA材料を消費した取引の仕訳

材料元帳の 8月5日の払出欄を仕訳する。 $46,000 = (60 \times 150 + 250 \times 148)$